電子ジャーナル（オンラインジャーナル）目録登録の現状と課題

平成 15 年度第 1 回総合目録データベース実務研修
平成 15 年 10 月 9 日

山梨大学　塩澤哲
東京大学　菅原英子
東京大学　成澤めぐみ

1.　電子ジャーナル目録登録の経緯－総合目録データベースを中心に－

① 日本目録規則 1987 年改訂版「第 9 章　電子資料」改定 [2000.8]

オンラインジャーナルを含むリモートアクセス可能な資料（ネットワーク系情報資源）についての目録規則を整備。

② 「総合目録データベースにおける電子ジャーナルの取扱い（暫定案）」発表
[NACSIS-CAT/ILL ニュースレター1 号　2000.8.10]

総合目録に登録する電子ジャーナルを定義づけた。

③ NII による電子ジャーナル（ScienceDirect 及び IDEAL）書誌レコードの作成
（約 1,600 件）[2001.12]　（ニュースレター５号で告知）

※ 関連事項
国立大学図書館協議会　電子ジャーナル・タスクフォース設置 [2000.9]

現在、出版社との協議・各大学における電子ジャーナルの取り組みへの支援・今後のコンソーシアムの枠組検討等を行っている。

2.　総合目録データベース（以下 CAT）における電子ジャーナルの現状

① 書誌レコード数

雑誌レコード全体数　　267,741 件 [2003.10]
電子ジャーナルレコード数　3,858 件 [2003.10]
NII 作成以外のレコード数　　329 件 [2003. 8]

NII が作成した主要出版社及び NACSIS-ELS 収録の書誌以外は電子ジャーナルレコードの１割に満たず、少数に留まっている。

② 所蔵登録機関数

CAT 接続機関　1,017 館 [2003. 8]
NII 作成主要出版社レコード　所蔵登録機関　201 館
（うち、冊子体レコードと誤って登録した可能性が高い少数登録機関は 1 誌のみが 71 館、2 誌以下で 100 館、一桁では 119 館にのぼる）　→　実質は 100 館未満か
図書館作成レコード　所蔵登録機関　29 館
（京都大学作成レコードが多く、うち所蔵件数 15 件以上は京大含め 2 館のみ）

所蔵登録機関数が、特に NII 作成以外のレコードでいまひとつ広がっていない。

③ CAT 所蔵登録機関の問題点

山梨大学の場合

- ローカルシステムが IDENT フィールド に未対応
- アクセス可能な所蔵巻次／年次データが出版社にコントロールされているため、データの修正が随時必要になる

3. ローカル目録における電子ジャーナルの現状　（国立大学図書館協議会会員館 Webpage 調査）

Webpage 上でアクセス可能なコンテンツの確認できた機関は全体で 89 館

① OPAC 検索不可　　69 館
アクセスポイントは契約電子ジャーナルリスト等、OPAC と独立したコンテンツのみ。アルファベット順タイトルリストのほかタイトル中のキーワード・ISSN 等で検索できるものが主流。

事例：山梨大学

CAT 所蔵登録は以前に行ったが、２－③で前述した問題点があるためローカルとの整合性がとれず OPAC へのダウンロードは行っていない。アクセスと検索は「電子ジャーナルサービス」コンテンツで行っている。

② OPAC 検索（間接）可　　３館

直接の検索はできないが、OPAC 検索結果から電子ジャーナルリストのデータにジャンプする等、間接的な所蔵検索は可能。

事例：東京大学

CAT 所蔵登録は行っていない。「東京大学で利用できる電子ジャーナル」からアクセス及び検索可能。

また、OPAC 検索結果の「E-journal」ボタンを押下することで同リスト検索結果に飛ぶことができる。

③ OPAC 検索（直接）可　　17 館

OPAC から直接所蔵検索可能。CAT 登録は実施館と未実施館がある。

事例：東京工業大学

CAT 所蔵登録は行っていない。OPAC から独立した「東京工業大学電子ジャーナルサービス」と OPAC の双方でアクセス及び検索が可能。

京都大学

CAT 所蔵登録を行っており、OPAC から独立した「学内向けサービス（電子ジャーナル）」と OPAC の双方でアクセス及び検索が可能。

4. 電子ジャーナル目録登録の課題と展望

① ローカル目録における電子ジャーナルの課題と展望

前章で示した通り、所蔵検索が OPAC とは別個のコンテンツによる機関が多く、現状ではユーザーにとっての利便性に欠ける。

今後は３－③の形態、OPAC から直接電子ジャーナルの所蔵検索及びアクセスが行える機関の増加が望まれる。

② CAT における電子ジャーナルの課題と展望

2000年からCAT登録が開始されて３年あまり経過したが、前述のローカルシステム上の問題点もあり、現時点では登録が順調に進んでいるとはいえない状況である。

これはローカルシステム上の問題のほかに、CAT登録のメリットが感じられず、CAT所蔵データのメンテナンスの煩雑さや検索結果からアクセスできるわけではない点等、デメリットのほうが大きいのではという疑問が所蔵機関にあるかと思われる。

しかしこれからの

- リプレイスによるシステム上の問題点の解消
- 電子ジャーナルタイトル数のますますの増加
- 特に冊子体のないオンラインオンリーのタイトルが増えてきた場合、CAT登録がないものは検索ができなくなる
- 著作権をめぐる状況の変化により電子ジャーナルのILL利用増加の可能性も

といった状況を考慮すると、いずれは「CAT登録をしないことによるデメリット」のほうが大きくなってくるものと思われる。

今後電子ジャーナルのCAT登録を促進するには、各所蔵機関のほか、所蔵データの管理等にNIIがより積極的に関与していくことも考えられる。その際、地域コンソーシアムや国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォース等との連携も重要な要素になってくるのではないだろうか。